和歌山大学クロスカル教育機構研究紀要第 2 巻 2021 年 3 月.78-99.

アメリカ TV ドラマにみる謝罪とその受け入れ

Apology and acceptance in American TV dramas

梅田　礼子

Reiko UMEDA

（和歌山大学クロスカル教育機構教養・協働教育部門）

Abstract

This paper observes some examples of apologizing acts from American TV dramas by using Speech Act model suggested by Suszczyńska (1999) and recommends using TV dramas in English teaching.　Apologizing is a communication act which tries to maintain or protect harmonious relations between the speaker and the hearer. In foreign language education and learning, it is important to teach/learn the procedure of such a speech act, including the behavior of the hearers.

キーワード/ ***Keywords*** *：謝罪、受け入れ、コミュニケーション、ポライトネス/ apology, acceptance, communication, politeness*

１．はじめに

会話は相互作用であり、英語教育においては単に会話によく出る表現を教えるだけでなく、状況に応じた相互作用や対人関係の構築・維持の方法を教えることも重要である。しかしながら、日本の英語教育においては、残念ながらそのような教育が十分になされているとは言い難い状況のようである。村田・大谷(2006) は Brown and Levinson(1987)らによる「ポライトネス」理論の観点から日本の英語教科書を調べ、「すでに 30 年以上にわたり行われてきたこれらのポライトネスの研究成果が日本の英語教育にはほとんど取り入られていない」つまり、「これまでに明らかになっている日本語と英語の間でのポライト

ネス・ストラテジーの差異を、学習者に明確に教えていない」「日本のテキストは聞き手に情報を伝達する機能は重視するものの、英語を用いていかに聞き手との友好な関係を築くかという対人関係の機能に対する配慮はほとんど示されていない」という問題があると指摘している（村田・大谷(2006:196）。

さらに、村田・大谷(2006)は、日本の大学の初・中級学習者に、英語で重視されるポジティブ・ポライトネス・ストラテジーを明示的に指導する実験授業及びアンケート調査を行った。その結果「ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーの使用により、話題や聞き手への興味や関心を示すために積極的に情報提供や情報の要求をするようになっている。そして結果的に、一つの話題についてより活発なやり取りを生み出している」（212）、また、「ターン交代数が増加し」(212)「単にこれらのストラテジーの使用が増えるだけではなく、情報伝達にとどまらず聞き手に配慮をした会話の運びが行えるようになった。さらにその結果、一つの話題に関してより多くの情報のやり取りがみられ、自然会話に近い活発な英語での会話が行えるようになっている」（213）と報告している。

筆者はこれまでに大学英語教育において、アメリカ TV ドラマを利用したことがあり、特に動機付け・現実に近い利用例を映像と音声とで学ぶことができる、という点で有用性を感じている。人気ドラマ「Friends」「Full House」を用いて、リスニング・文法・重要基本表現・字幕とセリフの違い・風物などを学習させ、「楽しく学習できた」「発音に興味が持てた」「外国に興味が持てた」「映像があり、分かりやすかった」等の感想を得た。しかし、ドラマを利用する利点はそれだけではない。ドラマを教材として利用することで、疑似的ではあるが、ある程度現実の会話に近い会話を観察することができる。状況・文脈に応じた会話を見ることができるので、語彙・表現・発音・文法の学習に留まらず、会話におけるポライトネス・ストラテジーを観察することもできる。また、日本文化とアメリカ文化の違い、特定の状況における会話の手順や定番表現の違い、その順序の違いなどを知ることもできる。

熊谷（1993）は異文化コミュニケーション研究について、次のように述べている。

（1）異文化間コミュニケーションにおける誤解は、ことばや非言語行動、習慣の違いなど様々なレベルで起こり得る。しかし、言語能力不足のためにおこる誤解、たとえば単語の言い間違いなどに比べ、言語行動の仕方が異なるために起こる誤解では、当

事者どうしがそれを異なるゆえの行き違いと気づかずに、果ては相手の人間性を疑うということにもなりかねない。（熊谷（1993）9）

外国語を用いてコミュニケーションする場合に、このような誤解があり、また語彙選択のミスのような明らかな間違いではないために、行き違いの原因に気が付きにくく、不幸な結果になることは避けたい。筆者はアメリカ TV ドラマを数多く見る中で、特に、謝罪の仕方について、日米の違いを感じた。日本の英語教育では“I'm sorry.”という表現や“apologize”という語を教えてはいるが、謝罪の仕方という言語行動をしっかりと教えているだろうか。本稿では日米で文化による差が生じやすいと推測される「謝罪行動」について考察する。

熊谷（1993）は謝罪研究について、次のように述べている。

（２）謝罪をコミュニケーション行動として研究する上で今後必要とされるのは、相互作用、あるいはやりとりのプロセスという形でとらえる姿勢であろう。これまでの謝罪について行われてきた研究は、謝罪をする話者の発話のみに注目する傾向があった。…（中略）…謝罪は、相手との間で問題や摩擦を解決し、人間関係を修復するという目的を達成する行為である。従って、さらに有益な洞察を得るためには、謝る側と謝られる側との相互作用のプロセスを通じて実現されるものとして謝罪をとらえ直すことがぜひとも必要と思われる。熊谷（1993：10）

そこで、本稿では日米で文化による差が生じやすいと推測される「謝罪」について、単に謝罪に用いる表現に注目するだけでなく、謝罪とそれに対する「反応(受け入れ／拒否)」にも注目し、アメリカの TV ドラマの実例を観察し、英語教育に利用する提案を行う。もちろん、ドラマは作られたシナリオに基づくセリフを話しているのであり、自然な会話そのものではない。しかし、あまりにも現実とかけ離れた会話でもないはずであるので、例として用いることに重大な危険はないだろう。

２．「謝罪」の Speech act モデル

Suszczyńska（1999）は Blum-Kulka and Olshtain（1984）の分類や Cohen and Olshtain (1981) らの分類を基にして、「謝罪の型」を整理した。

これらのうちどれを選択するか、は文脈や文化によるが、様々な文化にわたって、ある程度似ている、と指摘している。本稿では、このモデルを用いて、アメリカの TV ドラマの

実例を観察する。

（３）The model of apology by Suszczyńska（1999）

1) Illocutionary Force Indicating Devices (IFIDs)
 a. An expression of regret, e.g. *I'm sorry*
 b. An offer of apology, e.g. *I apologize*
 c. A request for forgiveness, e.g. *Excuse me/ Forgive me/ Pardon me*
2) Explanation or Account
 Any external mitigating circumstances, "objective" reasons for the violation, e.g. *The traffic was terrible*
3) Taking on Responsibility
 a. Explicit self-blame, e.g. *It is my fault/ my mistake*
 b. Lack of intent, e.g. *I didn't mean it*
 c. Expression of self-deficiency, e.g. *I was confused/ I didn't see you/ I forgot*
 d. Expression of embarrassment, e.g. *I feel awful about it*
 e. Self-dispraise, e.g. *I'm such a dimwit!*
 f. Justify hearer, e.g. *You're right to be angry*
 g. Refusal to acknowledge guilt
  Denial of responsibility, e.g. *It wasn't my fault*
  Blame the hearer, e.g. *It's your own fault*
  Pretend to be offended, e.g. *I'm the one to be offended*
4) Concern for the hearer, e.g. *I hope I didn't upset you/ Are you all right?*
5) Offer of Repair, e.g. *I'll pay for the damage*
6) Promise of Forbearance, e.g. *It won't happen again*

Suszczyńska（1999, p.1056）

３．アメリカ TV ドラマからの実例

2 節（３）のモデルに基づき、謝罪の仕方と、どのように受け入れるか、または拒否するか、を観察するが、謝罪は（３）の 1)～6)のさまざまな項目の複合体であり、1 つの項目だけを取り出して 1)～6)の順にいくつかのシーンを並べることは難しい。そこで、特に興味深い点、「謝罪の定番表現、順序」「補償の提案」「責任を認めること」「失敗例」を取り上げ、その実例として興味深いシーンを取り上げて解説する。

実例を拾ったドラマは　"Big Bang Theory," "Frasier," "The Good Wife"である。

"Big Bang Theory"(以下 BBT)：カリフォルニア工科大学に勤める若手研究者シェルドン、ルームメイトのレナード、彼らの友人ラージ、ハワードを中心に、彼らの研究者ゆえに世間ずれしている感じと、「スターウォーズ」「スタートレック」などの映画やコミック、ゲーム好きの「オタク」なところを笑いにしている。シェルドンは天才的だが、人の感情

を読むことが苦手で、当人に悪気はないのだが、周囲と様々なトラブルを巻き起こし、それが笑いになっている。ガールフレンド・エイミーは聡明な生物学者で、シェルドンと話が合い、尊敬もしているが、時には自己中心的なシェルドンに振り回される。

“Frasier”：精神科医のフレイジャー、父マーティンと弟ナイルズとのやり取りが中心。フレイジャーはラジオ人生相談をしている。父は野球やビールが好きだが、フレイジャーとナイルズ兄弟はインテリでワインやオペラを好み、父とは最初話が合わない。それが笑いになっている。

“The Good Wife”　弁護士アリシアの活躍を中心とする。州検事である夫の浮気事件から物語が始まる。学生時代の同期ウィルが勤める弁護士事務所に雇ってもらったが、ウィルへの恋愛感情、夫との関係、事務所でのもめ事など悩みが多い。

３－１．　謝罪の定番表現、順序

１） BBT Season9 Episode 23 The Line Substitution Solution　(10:00~) シェルドンはエイミーの買い物に付き合う約束をしていたが、好きな映画の公開があると知り、友人スチュワートをバイトとして雇い、エイミーのところへ送り、自分は映画待ちの列へ。怒ったエイミーはスチュワートを雇って、シェルドンに怒りの言葉をぶつけてもらう。シェルドンはスチュワートを雇い、花を持って謝罪に行かせるが、エイミーの怒りは収まらず。レナードに言われ、やっと自分がエイミーに謝りに行く。謝罪手順を説明しながら急いで謝る。

Sheldon (以下 S): Hi, everyone. Hi, Beverly, good to see you.　I love to chat, but there’s a line that could start to move any minute, so let’s do this.

(to Amy) Amy, the proper apology requires three steps. Step one, an admission of wrongdoing. Amy, I was wrong. Step two, a promise never to repeat said action. Amy, that action will never be repeated, and that’s a promise.　Step three, an earnest request for forgiveness. Amy, I hope you can forgive me, and I hope you do it right now, cause there’s Uber waiting downstairs, and I don’t wanna repeat this apology nonsense with my driver, Ganesh.

Amy: Fine.

Sh: Oh, thanks, you’re a peach.

このシーンでは聡明なシェルドンが謝罪の手順を言いながらそれに従って発言している。人の気持ちを読み取ることや共感することが苦手なシェルドンは抜群の記憶力を生かしてこのように手順を覚えているのである。手順まで述べているのが笑いのネタだが、本人が解説している通り、謝罪は順に(3)a. Explicit self-blame (*I was wrong.*), (6) Promise of Forbearance *(that action will never be repeated, and that's a promise*), (1)c. A request for forgiveness (*I hope you can forgive me, and I hope you do it right now*), となっている。手順を踏まえてきちんと謝ってはいるが、そのすぐ後に"this apology nonsense"と言ってしまっており、普通ならエイミーは怒るところである。しかし、友人スチュワートにさせるのでなく、本人がようやく来たことでエイミーは許した。そこには、シェルドンが普段から人の気持ちを読むことや謝ることが苦手なことをエイミーがしっかりと理解し、そうした欠点も含めてシェルドンのことを愛しているという関係がある。ただし、十分な気持ちのこもった謝罪ではないため、"Fine"と渋々謝罪を受け入れている。

２）BBT7 EP1　Hofstadter Insufficiency 15:41~

レナードが北極に調査に行っていて留守。ペニーとシェルドンが夕食後一緒に過ごしている。ペニーがお互い親密な話をしよう、少し恥ずかしいようなことを打ち明けあおうと提案。 シェルドンが話したことが小さなことで、ペニーは軽く扱い、自室に寝に帰ろうとする。怒るシェルドン。

Sheldon: Okay, here's one I thought I'd take to the grave.　A while back, You Tube changed its user interface from a star-based rating system to a thumbs-up rating system.　I tell people I'm OK with it, but I'm really not.

Penny: That's your big revelation?

S: Yes. Wow! I feel ten pounds lighter.

P: OK, you know what?　I give up.　I'm going to bed. （自室に帰ろうとする）

S: Here's something else you don't know about me. You just hurt my feelings.

P: What did I do?

S: I opened up and shared something deeply upsetting to me, and you treated it as if it were nothing.

P: I, …I didn't think it was a big deal.

S: It **is** to me. That's the point.

P: Sheldon, you are right. I'm really sorry. I should've known better.

S: Your apology is accepted.

P: Thank you.　How about a hug?

S: How about a hearty handshake?

P: Come on.　　(HUG)

ここではペニーが f. Justify hearer (*Sheldon, you are right*.) (1) IFIDs a. An expression of regret (*I'm really sorry*.) (3)Taking on Responsibility　a. Explicit self-blame (*I should've known better*.) というストラテジーを用いて謝罪し、シェルドンは"Your apology is accepted."と謝罪を受け入れる表明をしている。それに対し、ペニーは"Thank you."と礼を述べた後、仲直りのハグを提案している。神経質で他人との体の接触を嫌がるシェルドンが渋々ハグを受け入れることで笑いが起きる。

３）IFIDs を用いてはいないが、関係が修復できた例

BBT S7　Proton Replacement　12:14～, 14:02~

girls' night でジュエリーを作っていた女性陣とラージ。ハワードが高度な道具を使えばもっとクールなジュエリーが作れる、と割って入り、ラージは機嫌を損ねた。ハワードが話しかけ、ラージは心情を吐露。

Raj: (拗ねて大きめな声でハワードの真似をして独り言) "My name is Howard.　I can make your hair into diamonds.　My mom is morbidly obese.　Everybody love(s) me."

Howard: Whoa, where is that coming from?

R: I'll tell you where it's coming from.　All you do is make fun of me for coming to girls' night, and now you're here ruining it for everyone.

Penny: Raj, cool it.　He's gonna make us hair diamonds.

H: (ラージの座っているソファに近づきながら) How am I ruining anything?　I'm just tried to help you make better jewelry.

R: But this isn't about the jewelry.　This is about me having a place where I can open up about my feelings.

H: Since when can't you open up with me?

R: There's just something that I feel more comfortable sharing with girls, because they won't make fun of me or call me names, or ask me if my "Koothrapanties are in a bunch."

H: Buddy, I was just joking around.　（ラージの隣に座る）

R: Yeah, well, sometimes your jokes hurt.

H: (Sigh)　You are right. I didn't realize I was making you feel that way.（少し座りなおしてラージに近づき、肩に手をかけて）　It was very brave of you to tell me.　（背中をさする）

R: Thank you.　It wasn't easy.　（ラージの膝をそっとたたいて微笑む）

Amy: They're gonna have sex before Sheldon and I do.　I knew it.

このシーンでは、ハワードから I'm sorry などのはっきりとした謝罪の言葉（（１）IFIDs）は無く、話し合いと背中をさする、膝を叩くという親愛を表す動作だけで仲直りしている。彼らは親友で、普段からややフェミニンなラージが女性役で、男性―女性的な関係が笑いのネタにもなっている。ここでも恋人や夫婦のような会話が笑いを誘っている。心が通じ合っていると、明らかな謝罪の言葉がなくても、お互いを認め合うことで関係修復ができる、という例として興味深い。

４）関係修復要求とその失敗例

BBT　S7Ep1　Hofstadter Insufficiency 10:57～

バーナデットとエイミーが 2 人で学会へ。バーで話していると、別のテーブルの男性たちからドリンクをプレゼントされ、バーナデットは変わり者のシェルドンと付き合っているエイミーに「他の男性を物色してもいいんじゃない？」と言ってしまう。この例ではセリフにストラテジー名を追記する。

Bernadette: Although, if you wanted to talk to one of them, no one would blame you.

Amy: And why would no one blame me?

B: I don't know what I'm saying. c. Expression of self-deficiency

A: Well, it sounds like you're saying that I could do better than Sheldon.

B: Boy, these drinks are strong! Oh, Mama, I'm gonna be hugging the toilet tonight! (3) Taking on Responsibility g. Refusal to acknowledge guilt. Denial of responsibility. (お酒のせいに。)

A: No, tell me.　I want to know what you meant by that.

B: I just meant that you're not married, and your boyfriend's kind of…Sheldon. (2) Explanation

A: And your husband is extremely Howard.　What's your point?

B: Sorry, I have no point.　(1)IFIDs a. An Expression of regret

That was a stupid thing to say. (3) Taking on Responsibility c. Expression of self-deficiency Can we please just go back to having a nice time?　((1)IFIDs c.A request for forgiveness の一種と考え得る。)

A: We could, but unfortunately my brain is lesion-free, and I remember that rotten thing you just said about my sweet baboo.

B: Come on, I apologize. (1)IFIDs b. An offer of apology

Can we just please let it go? ((1)IFIDs c.A request for forgiveness の一種と考え得る。)

A: Sure.

B: Thanks.

A: Your husband's weird and his clothes are ridiculous.

この会話での、バーナデットの"Can we please just go back to having a nice time?," "Can we just please let it go?"は(1)IFIDs c.A request for forgiveness の一種と考えてよいだろう。友達だからとエイミーは一応謝罪を受け入れて"Sure."と答えたが、ボーイフレンドをけなされた怒りは簡単には消えず、バーナデットがお礼を言った後に、彼女の夫を再びけなす。ここで録画会場の観客から笑いが起きる。

３－２．補償の提案の例

１） S5　Ep8　The Isolation Permutation

エイミー抜きで結婚式ドレスを買い物に行ったバーナデットとペニー。そのことがエイミーに知れてしまい、エイミーの研究室に謝りに行く。

1 度目　13：28~

Penny: We just want to apologize for not bringing you with us the other day. (1)IFIDs a. An Expression of regret

Amy: That’s not necessary.　It’s like the Sesame Street says: one of these things is not like the others, one of these things should die alone.

P: No, come on, Amy, let us make it up to you. We’ll have a girls’ night. We’ll do whatever you want. (5)Offer of Repair

Bernadette: We can go down to the Korean bath and do that thing you were talking about where we wash each other. (5)Offer of Repair

A: It’s OK. I’m glad this happened. I can stop pretending that some beautiful girl and her cute-in-the-right-light-friend wanna hang out with me.

B: Amy, we’re really sorry. (1)IFIDs a. An Expression of regret

P: Yeah, we feel awful. (3) Taking on Responsibility d. Expression of embarrassment

A: Don’t. I’m Okay.　エイミーは昔から友達だと思っていた相手から見捨てられていた、と話し、この回は謝罪を受け入れず。

2 度目の謝罪 17:00 ~

B: We know you’re upset, and you have every right to be, but if it’s OK with you, we’d like a second chance to make things right. (3) Taking on Responsibility f. Justify hearer

P: We are really sorry.　We were trying to think of some way to show you how much we care about you. (1)IFIDs a. An Expression of regret　(5)Offer of Repair を考えていたことの表明

B: Which is why it would mean so much if you would agree to be the maid of honor at my wedding. (5)Offer of Repair

エイミーは maid of honor になってと言われて感激、怒りを忘れて喜ぶ。結婚式に向けて変わった儀式をしたがったり、趣味が良くないドレスを選んだりするエイミーを避けたくて、2 人で買い物に行ったペニーとバーナデットだが、そのことでエイミーを深く傷つけてしまった。1 度めの謝罪は受け入れられず、再び 2 人揃って謝罪に訪れ、誠意を示している。謝罪のいろいろなストラテジーを用いて、エイミーの気持ちをなだめようとしている。結局は結婚式の介添え役という、エイミーが憧れていた大役を依頼することで許しを得た。損害の補償の申し出が物ではなく、友情の象徴と言える結婚式での役割という、抽象的なものである、興味深い例である。

２）　抽象的なもので補償をする例は他にも、BBT Season4 Ep7 で、ハワードが宇宙関係の新しい仕事の審査を受けているとき、シェルドンが過去の火星探知機の事故の話をしてしまい、仕事を得られなくなる、という話に出てくる。ハワードの許しを請うためにシェルドンはソファのお気に入りの場所を譲る、と言って、大学の食堂でその象徴であるソファクッションをハワードに渡す。神経質なシェルドンは座り心地の良いその席を独占、他人に座らせないほど執着している。その席を譲るということは、(5)Offer of Repair の中でも最大級のものであり、ハワードもさすがに感激して許す。

この２例のように、相手を深く傷つける、怒らせる、などした場合、関係を修復するには、このように謝罪に多くのストラテジーを用いる、1 度でやめない、かなりの補償を申し出る、などして誠意を尽くす必要がある。

補償の行為については文化によっても差がある。高橋(2011)は、補償の行為を重視する中国人と、謝罪の言葉を重視する日本人のコミュニケーション方略の違いを指摘し、それが、日本人が「謝らない中国人」という印象を持つというように文化摩擦の一因になると述べている。

（４）日本人の場合、まず謝罪の言葉から謝罪行為が始まることが重視され、反対に補償のみあって謝罪の言葉がない場合、いわゆる「心がこもっていない」と相手が見做し、その場が収束しないかもしれないという危険性がある。一方、補償の行為を重視

する中国人は極めて現実的な国民であり、中国人にとって言葉のみの謝罪は謝らないことと同一視されうる傾向にあるのではないだろうか」（高橋(2011), 5）

さらに、面子に注目し、次のように指摘している。

（５）責任の取り方に着目した場合、日本人は相手に委ねるという形で無条件の謝罪をするが、中国人は自分の非を認めた時には、責任の取り方を自分で示すことで、決して無条件の謝罪ではない、面子を立てた上での謝罪を行っているのである。（高橋(2011), 5）

３－３．責任を認めること―文化による違い

１） Frasier S3Ep17　Etiquette Lesson

混雑するカフェで、フレイジャーとナイルズが待っていた席が開くと、別の客が横入りした。フレイジャーが注意するも、席を譲らない客。それならば仕方がない、表に出てもらう、と体を抱えてつまみ出した。これがラジオでも「暴力をもってでもマナーを教えたのだ、ヒーローだ」と評判となったが、フレイジャーは「暴力による解決は望んでいない」と説明。今度彼に謝る、とラジオで告げるフレイジャー。そして、男性にカフェに来てもらい、謝罪する。

Frasier: I was 100% wrong. I had absolutely no right to touch you, and I accept full responsibility.

The man: （感激した風情で）Wow, I’m glad to hear you say that.　（店内の客たちに向かって）And I hope you all heard that, too.

Frasier: So, then, you accept my apology.

The man: No, I’m suing you.　And I’ve got a lot of witnesses that just heard you admit that you were wrong.

Frasier: But, it’s the stressful time we’re living in…

ここでは、フレイジャーが誠意を持って責任を認めたが、男性はフレイジャーの予想とは違い、謝罪を受け入れてくれるどころか、「責任を認めた、訴える。証人もたくさんいる」と言ってきた。ここで弟ナイルズが機転を利かせ、男性を挑発、怒った男性がちょっ

と指でナイルズの肩をつついたたとたん、派手に転倒して見せ、駆け寄ったフレイジャーに “Countersuit!” と指示するというオチが来る。男性は驚いて、「ちょっとつついただけなのに！」それを聞いたフレイジャーは “You admit it!” とやり返す。

このように、行った行為についての責任を認めるということは、それをもって訴えられるという可能性もある。それほど重大なことであるので、謝罪する際には、相応の覚悟を持って非を認めて謝罪を行うことになる。

２） BBT S9 Ep13「最適な思いやりの法則」

シェルドンがインフルエンザにかかり、友人たちが看病してくれたり薬を持ってきてくれたりしたのに酷い態度をとった。友人たちは我慢の限界を超え、シェルドン抜きでラスベガスに遊びに行く話がまとまる。シェルドンは「病気の時には我儘にしてよい」という前提に立っているため、なぜ友達が怒っているかが理解できていない。シェルドンの彼女エイミーが「相手の気持ちを考えないといけない」と指摘し、ラスベガスに一緒に行きたいのなら友達に謝るべきだ、と諭す。そこでシェルドンは友達に謝罪して回る。

セリフの詳細は梅田(2019)で取り上げたので、ここでは結果だけを述べると、古くからの友人たちは、普段めったに自分の非を認めない、傲慢ですらあるシェルドンが謝ったで、すぐに謝罪を受け入れた。ラージは感激すらしている。しかし、ラージのガールフレン・エミリーはシェルドンとの付き合いが浅く、彼の普段の言動を知らないので、謝罪中にまた皮膚科医を馬鹿にしたという事実に気分を害し、謝罪を受け入れられない、と拒否した。

３）十分に怒りが収まったわけではないが、謝罪を受け入れた例

BBTS6　Ep22　The Stag Convergence 17:45 ~

ハワードのバッチェラーパーティーで、ラージがハワードの昔の悪さを暴露。参加者がそれをネットにアップし、ハワードの婚約者バーナデットがそれを見て怒りとショックを受け、女友達に「この人が分からなくなった」と相談。ハワードがバーナデットに謝罪にくる。バーナデットは部屋に籠っているので、ペニーに伝言を頼む。

Howard:　Tell her I’m really sorry. And if she doesn’t want to marry me, I get it.　But what I really want her to know is that the guy that she’s disgusted by is the guy that I’m disgusted by too,

but that guy doesn't exist anymore.　He's gone.　And the reason is because of her. So, if this relationship is over, let her know that she made me a better man and tell her "thank you".

Penny: Oh my God, Howard.　That's the most beautiful thing I've ever heard. And it came out from you!

Bernadette: Come here…　(HUG)

B: I'm still mad at you.

Howard: I get that.　(中略)　So, is the wedding still on?

Bernadette: Yeah, the wedding is still on.

これも、「謝罪」＝「非を認める」ということが重みのあることであり、それを行ったハワードのことを考え、また、これから結婚するという段階なので、関係修復をしたい気持ちもあり、バーナデットは「まだ怒っている」が、謝罪は受け入れたのである。ここでは、「心情」（I'm still mad at you.）と「論理」「社会的関係の修復」とを分けて考えている様子がうかがえる。

４）謝罪＝非・責任を認めること、それが重大であることの裏返しとして、「謝ったじゃないか」と言う例

BBT S7 Ep2 The Deception Verification　11:00～

レナードは北極での調査から予定より早く帰ってくるが、ルームメイトのシェルドンには内緒で、恋人ペニーの部屋へ。ペニーと食事をしようとしてやってきたシェルドンがそのことを見つけ、怒る。

Leonard: I'm sorry, Sheldon.　I should have told you that.　I just wanted to have a couple of days alone with Penny.

Sheldon: Oh, no.　**I** should apologize. I never realize to what extent our friendship was a burden to you.

L: That is not fair.　I complain about what a burden it is at least once a month.

S: Oh, no, no, let's not sugarcoat this. You find me finicky, pedantic and annoying.

Penny: No, he doesn't.

L: I actually **have** used those exact words before.　In that order.

S: Well, Leonard, I think it's high time you and I address the "tweepadock" in the room.

L: The what?

S:(エイミーに、エイミーが作った言語の単語の説明を求めて)　Amy?

Amy: Please leave me out of this.　(キッチンへと歩いて逃げる)

S: Fine. Leonard, there's no need for you to pretend to like me anymore.

L: Come on, I said I was sorry.

怒りが収まらないシェルドンに、レナードが土産の水兵帽を渡す。シェルドンは"You honestly think you can buy back my friendship with a cheap souvenir?"　と言いつつも、かぶってみて、女性陣が誉めたので、表向きは "This changes nothing"と言うが、内心は気をよくする。

翌日、実はまだ怒っていて嫌味を言うシェルドンに、レナードが反論。

15:53 ~

L: Hey, I said I was sorry.　What else do you want me?

S: I want you to admit what you did was wrong.

L: Fine. What I did was wrong.

S: （フッと笑って）　I wish I could believe you.

日本では「謝ったじゃないか。これ以上僕にどうして欲しいんだ？」と言えば、いわゆる「逆ギレ」で、元はと言えば自分が悪いのに、反省していないという感じを受ける。しかし、「謝罪」＝非・責任を認めるという行為自体のハードルが高いアメリカ文化では、かなりの覚悟で非を認めて謝罪する、それを聞き手が受け入れたなら、水に流すのが一般的である。そこでまだ蒸し返して文句を言っているシェルドンに対して、このように"I said I was sorry.　What else do you want me?"と言いうると考えられる。

逆に、「日本人はよく謝る」「日本人はすぐに謝る」と言われているように、謝罪に対するハードルがアメリカ文化よりは低いようである。それは責任感が無いということではなく、ともかく、相手を怒らせたという事態に対して申し訳ない気持ちがあり、その事態をまず収束させること、相手に対して失礼なことをしたことに対して詫びること、定番表現を用いてまず詫びること、が重要とされている。

もちろん、だからと言って、謝罪すれば必ず受け入れられるというわけではない。重大な損害や精神的打撃を与えた場合は謝罪を受け入れられない、または、受け入れるのに時間がかかるという場合も当然ある。

５）最終的には謝罪が受け入れられるが、時間がかかる例。また、責任を認めることが重大であることを示す例でもある。

The Good Wife S7 Ep11「アイオワ州」では、選挙運動戦略家のイーライ・ゴールドが、候補者フロリックの夫人アリシアに、法律事務所上司であるウィル・ガードナーから電話が入ったが、選挙演説が始まるところで、アリシアには夫婦仲がいい様子を見せてほしいために、電話を取り次がない、さらに、留守番電話メッセージを聴いて、愛の告白だと知り、消してしまう。その数年後、ウィルは法廷で情緒を乱した被告人に撃たれて亡くなる。

電話を消してから 6 年後、イーライは珍しく恋したが、相手は仕事が大事、と突然去って行った。自分の痛みから、アリシアのことを思い出し、アリシアには幸せになってほしいという思いからか、自分のしたことの重みに耐えかねてか、アリシアに謝罪に行く。（S7 Ep10）世間話から始まり、最後に 6 年前の電話のことを告白するイーライ。アリシアはあまりのことに無言で聞いていた。　イーライが詫び、幸せになってほしい、と述べる。アリシアは Get out! とだけ言う。心配したイーライがその場に残っていると、静かにお皿を取り出し、投げつけた。

その後、S7 Ep12 では、イーライの娘マリッサ（過去にアリシアが州検事に立候補した時に、選挙活動の手伝いをしていたのでアリシアとは親しい）が、父とアリシアの仲を修復すべく、アリシアに話に行く。父が他人のことを気に掛けるなんて珍しいことだ、その父が謝っている、と。

Marisa: My dad cares about you, Alicia.　He only confessed to you what he did because he was torn up about it.　He never had to confess. You wouldn't have known.　No one wouldn't have known.　But he cares about you.　And my dad doesn't care about many people. Yes, he did wrong, but let him apologize. Let him …　（アリシアが何か言いたげなことに気づき）What?

Alicia: I hurt.

M: I'm sorry.

A: It hurt me.

M: He knows that.

A: Then he can't expect anything more of me.　It would be unfair for him to expect anything more.

M: Then let me say something. Something very small.　Call him up and say, "You're forgiven. I need some time to not deal with you, but you're forgiven."

A: I can't.

M: Please?

A: Marisa… No.

マリッサは諦めて去る。

Ep　椅子取りゲーム　37:30~　そして、またイーライがアリシアに謝罪に来る。

Eli: It was hard for me to apologize.　I never do that.　And I never confess to anything.　But I did to you.（涙を浮かべながら）　Because I'm sorry.　I'm so sorry.　I've never been more sorry about anything in my life.

Alicia: Okay, Eli.　You're forgiven.

Eli: [Sigh]　Really?

Alicia: Yes. I'll talk to you later, OK?

日本では「めったに謝らないのだから許してくれ」とか「許してやってくれ」は自分勝手な言い訳としか聞こえない。しかし、これは「謝る」ことに対しての心理的ハードルの違いだろう。イーライの謝罪の前に、選挙戦略家ルースがした、「運命って、たぶん、ちょっとしたことが違っていても、結局は変わっていなかったと思う」という話と、弁護士仲間ルッカに苦しい心情を吐き出し、慰めてもらっていた。アリシアはウィルとは結ばれない運命にあったと悟ったのだろう。そこに、イーライが誠意ある謝罪をしたので、ついに許した。

３－４．失敗例

中道・土井(1993)は、日本語教育のさまざまな教材が「謝罪」をどのように扱ったかを調査報告している。その中で、「実際の教授活動においても、謝罪タスクの遂行について学習すべきことがらは、まだ明確に意識されていないように思われる」と述べている。項目を明示した数少ない教材例として、「『こんなとき日本語で―中級―』（日本テレビ文化事業団）ではいくつかの謝罪場面における謝罪の成功例と失敗例を比較対照し、まず謝ること、自分の過失も認め責任を取ろうとする態度を見せること、以後の仕事に対する自分の心構えをはっきりと表明することの三点を謝罪場面における重要な学習項目として挙げているが、このような形で学習者や教師に項目を明示している教材は少ない」と指摘している。この指摘にある、項目を明示することも重要であるし、成功例だけでなく、「失敗例」を示すことも、実践的会話練習には重要である。

１）BBT　S7 Ep5　The Workplace Proximity

シェルドンは恋人エイミーが同僚といるところに行き、自己紹介をするが、同僚に失礼なことを言い、エイミーに恥をかかせる。レナードとペニーがエイミーに謝りに行くように忠告し、シェルドンはエイミーが怒る理由があまり分かっていないまま謝罪に行く。

A: What are you doing here?

S: Amy, this isn’t easy to say….　All relationships are difficult, but even more so when you are in one with a person who struggles in everyday social interactions. And frankly, who can strike some people as being kind of a weird.

A: Sheldon, you are a weird.

S:　I wasn't speaking about me.　I mean, obviously there's no telling what will set you off, eh, introducing myself as your boyfriend, giving you the opportunity to drive me home, breaking the ice with your colleagues using ethnic humor, the funniest kind of humor.

A: What's you point?

S: My point is, we're a couple and I like you for who you are, quirks and all.

A: I like you, too.

S: I should hope so. I don't see anyone else banging on this door to put up with your nonsense.
(エイミーは怒ってドアを閉める。)

S: Not even a goodbye.　You see, that's the kind of thing that makes people think you're weird.
(独り言) Poor kid. She doesn't see it.

シェルドンが　"I like you for who you are, quirks and all."と言ったことで、怒りが収まってきたエイミーだったが、次のシェルドンの発言で再び怒ってしまう。謝罪の言葉を並べても、原因を把握し、真に反省しての謝意が無い場合は失敗する、という例。もちろん、これは、小さい頃から天才で、周囲の子供たちと話が合わず、また、他人の気持ちの読み取りが苦手なシェルドンが、いろいろな誤解を巻き起こすことを笑いにしている。

２）BBT S9 Ep13「最適な思いやりの法則」　上記３－３．で取り上げた、シェルドンがインフルエンザで皆に看病してもらった時の、失礼な態度を謝罪して回る話。

Emily: Well, I don't accept your apology.

Raj: What are you doing?

E: It's called standing up for myself.　You should try it sometime.

シェルドンと付き合いが浅く、彼の性格をまだよく知らないエミリーは、謝罪中にも皮膚科医について馬鹿にされたことに怒り、謝罪の受け入れを拒否する。

連続ドラマではメインキャラクターたちは固定していることが多く、誤解が生じたり、喧嘩をしたりしても、早期に、早い場合は謝罪のその場で関係を修復し、同じキャラクターで話が続くことが多い。つまり、「失敗例」が少ない可能性がある点は注意してお

くべきである。成功例だけを覚えて学習すると、その定番表現やよくある順で謝罪すれば必ず相手が受け入れてくれる、という誤解をしかねない。基本的なパタンは学習したうえで、失敗例も学習し、実際の会話場面では柔軟に対応できる力をつけさせることが大切である。

４．まとめと今後の課題

本稿では、Suszczyńska (1999)の謝罪の Speech Act 分析モデルを用いてアメリカ TV ドラマの謝罪場面いくつかについて、聞き手による謝罪の受け入れも含めて話し手と聞き手の相互作用としての謝罪行動を観察し、考察した。重大な過失に対しては様々な謝罪ストラテジーを用いることが多いこと、「責任を認めること」に関する日米の違い、誠意のない謝罪や、過失が重大過ぎる場合に失敗する例などが認められた。

このように、状況によってさまざまであるコミュニケーション行動を教えるまたは学習するには、状況設定があり、ある程度の長さの会話を見ることができるドラマを利用し、話し手だけでなく、聞き手のコミュニケーション行動を把握することが有効であると考える。

なお、3－3.節で扱った、「責任を認めること」の文化による違いについて、Hofstede, G. , Hofstede, G.J., and Minkov, M.(2010)や高野・櫻坂(1997)の指摘する、「個人主義」対「集団主義」が関係すると考えられ、今後の課題としたい。

参考文献

Abdi,R. and Biri, A.(2014) A Study of Apology Speech Act in Sitcoms: Implications for Language Teaching and Learning. *English Language Teaching*. Vol.1, No.3.37-57.

Adrefiza and Jeremy Jones.(2013) Investigating Apology Response Strategies in Australian English and Bahasa Indonesia: Gender and Cultural Perspectives. *Australian Review of Applied Linguistics*, 36(1), 71-101. Retrieved from https://www.jbe-platform. com/docserver/fulltext/aral.36.1.04jon.pdf

Blum-Kulka, S. and Olshtain E.(1984) Request and Apologies: A Cross-Cultural Study of Speech Act Realization Patterns (CCSARP). *Applied Linguistics*, *Vol.5, No.3*. 196-213.

Brown,P. and Levinson, S. (1978) Politeness: Some universals in language usage. Cambridge: Cambridge University Press. [ペネロピ・ブラウン、スティーヴン・C・レヴィンソン共著『ポライトネス―言語使用における、ある普遍現象』田中典子監訳(2011)研究社]

Culpeper, Jonathan and Michael Haugh (2014) Pragmatics and the English Language. Palgrave Macmillan. [ジョナサン・カルペパー、マイケル・ホー著「新しい語用論の世界―英語からのアプローチ」椎名美智（監訳）（2020）.研究社.]

Hofstede, G. , Hofstede, G.J., and Minkov, M.(2010) Cultures and Organizations—Software of the Mind. McGraw-Hill.

池田理恵子(1993)「謝罪の対照研究：日米対照研究―face という視点からの一考察―」『日本語学』12 号. 13-21.

柏木厚子(2015)映画・テレビドラマにみる日米謝罪表現の差異―オリジナル言語版および吹き替え版の分析から―.『学苑』No.893.11-25.

熊谷智子（1993）「研究対象としての謝罪―いくつかの切り口について―」『日本語学』12 号. 4-12.

熊取谷哲夫(1988)発話行為理論と談話行動から見た日本語の「詫び」と「感謝」. 広島大学教育学部紀要. 第二部 / 広島大学教育学部 編. 37. 223-234.

村田和代・大谷麻美(2006)ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーの指導の試み. 堀素子・津田早苗他『ポライトネスと英語教育―言語使用における対人関係の機能』第 10 章 195-230. ひつじ書房

中道真木男・土井真美(1993)日本語教育における謝罪の扱い.『日本語学』12-12. 66-74. 明治書院.

Olshtain, E. and A. Cohen (1990) The learning of complex speech act behaviour. TESL Canada Journal/Revue TESL du Canada 7/2, 45–65.

大谷麻美 (2008) 謝罪研究の概観と今後の課題 ： 日本語と英語の対照研究を中心とした考察 A review of research on apology : Japanese and English cross-cultural comparisons『言語文化と日本語教育―第二言語習得・教育の研究最前線』増刊特集号. 24-43.

Spencer-Oatey, H.(2008)Face, (Im)Politeness and Rapport. in Spencer-Oatey, H.(2008(2013)) Culturally Speaking: Culture, Communication and Politeness Theory.(2nd edition). Bloomsbury.

Sugimoto Naomi(1989-9) “Sorry we apologize so much”: Linguistic Factors Affecting Japanese and U.S. American Styles of Apology. *Intercultural Communication Studies VIII-I*.71-78.

Suszczyńska Małgorzata. (1999) Apologizing in English, Polish and Hungarian: Different languages,

different strategies. *Journal of Pragmatics* 31.1053-1065. http://dx.doi.org/10.1016/S0378-2166(99)00047-8

高野陽太郎 ・櫻坂英子(1997) “日本人の集団主義”と“アメリカ人の個人主義”―通説の再検討『心理学研究』Vol. 68, No. 4, 312-327

Tanaka N., Spencer-Oatey H. and Cray E. (2008) Apologies in Japanese and English. in Spencer-Oatey, H.(2008(2013)) Culturally Speaking: Culture, Communication and Politeness Theory.(2nd edition). Bloomsbury.

Trosborg, Anna.1987.Apology strategies in natives and non-natives. *Journal of Pragmatics* 11:147-167.

上原 麻子(2001)コミュニケーション現象の解明に向けて: コード・モデルから Goffman へ, 『異文化コミュニケーション研究』13 巻, 神田外語大学異文化コミュニケーション研究所, 31-57,URL http://id.nii.ac.jp/1092/00000272/

上原 麻子（2002）コミュニケーションと文化―多文化社会に向けて―. 広島大学大学院国際協力研究科『国際協力研究誌』第８巻第２号. 11-24.

梅田礼子(2019) 「謝罪」のストラテジー：アメリカ TV ドラマに見られる「謝罪」.大同大学紀要 第 55 巻

Waluyo Sri.（2017）Apology Response Strategies Performed by EFL Learners *Metathesis* Vol.1, No.2. 94-109.

Valkova Silvie (2013)Speech acts or speech act sets: Apologies and compliments. Linguistica Pragensia 23(2):44-57

薮内昭男（2015）『ポライトネスとフェイス 研究の諸相―大きな物語を求めて―』. リーベル出版.

引用資料

1) Big Bang Theory: S5 Ep8, S6 Ep22, S7Ep1,2, S9 Ep13,23.(2013-2014) Warner Brothers.

2) Frazier S3 Ep17 (2005) NBC.

3) The Good Wife Season7, Ep10, 11,12 (2015-2016) CBS.